

日本史 奈良・平安天皇総整理

在位	天皇など	出来事
697~707	1. 文武	不比等 刑部親王・藤原不比等らと共に[2. <u>大宝律令</u>](701)を制定。
707~715	3. 元明	
715~724	6. 元正	長屋王 708年[4. <u>和同開珎</u>]鑄造、710年[5. <u>平城京</u>]遷都。 養老律令 制定 (718)。長屋王政権では土地政策が行われ、百万町歩の開墾計画(722)、[7. <u>三世一身法</u>](723)が出される。
724~749	8. 聖武	
749~758	11. 孝謙	四子 729年長屋王の変の後、藤原四子により[9. <u>光明子</u>]が皇后となる。 橘諸兄政権では[10. <u>玄昉</u> ・ <u>吉備真備</u>]を信任。彼らの排除を求めて藤原広嗣の乱(740)発生。乱後は都を転々。743年墾田永年私財法。深く仏教を信じ、東大寺盧舎那仏を鑄造。天平文化の最盛期。
		橘諸兄 757年養老令 施行 。[12. <u>藤原仲麻呂</u>]を重用し橘奈良麻呂の変が起こる。一度退位するが、道鏡を寵愛。後、重祚して称徳天皇。
758~764	13. 淳仁	仲麻呂 仲麻呂に推されて即位。仲麻呂に[14. <u>恵美押勝</u>]の名を与える。孝謙太上天皇が道鏡を寵愛するようになると対立。仲麻呂の反乱後、廃されて淡路に流される。
764~770	15. 称徳	道鏡 恵美押勝の乱の後、孝謙太上天皇が重祚。道鏡寵愛。769年宇佐八幡(宮)神託事件で皇位を譲ろうとするが[16. <u>和氣清麻呂</u>]が妨害。
770~781	17. 光仁	百川 天智系。[18. <u>藤原百川</u>]に擁立されて即位。道鏡時代の仏教政治で混乱した律令制度と国家財政の再建が目指される。
781~806	19. 桓武	律令政治を再建するため784年に長岡京に遷都するが、造営を主導した藤原種継が暗殺される(皇太子早良親王を排斥する為とも言われる)。794年に平安京に遷都。国司の交替時の監察官として[20. <u>勘解由使</u>]を設置。東北征伐では797年に坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命。徳政論争で[21. <u>藤原緒嗣</u>]の進言を受け入れ、軍事・造作の中止。
806~809	22. 平城	桓武天皇の政治改革を受け継ぐも病気の為退位。退位後も太上天皇として権威と権力は保持し、後[23. <u>平城太上天皇の変</u>]を起こす。
809~823	24. 嵯峨	蔵人所を設置して[25. <u>藤原冬嗣</u>]、巨勢野足を蔵人頭とし、平城太上天皇の変を鎮圧する。京内の警察の職務検非違使を設置。
823~833	26. 淳和	清原夏野らを積極的に登用。 養老令の官撰注釈書である[27. <u>令義解</u>]を編纂させる。
833~850	28. 仁明	[29. <u>承和の変</u>]が起こる。恒貞親王を排斥し、良房の妹順子とこの天皇の間にできた道康親王(ミチカズノミコ)を皇太子にするために行った陰謀事件。この事件により伴健岑、[30. <u>橘逸勢</u>]らが配流。
850~858	31. 文徳	承和の変で恒貞親王(ツネダシノミコ)の代わりに[32. <u>藤原良房</u>]に立太子された人物。藤原氏と折り合いが悪く、あまりにも唐突に死んでいるので、暗殺されたという説もある。
858~876	33. 清和	9歳で即位し、良房が事実上の摂政となる。伴善男らによるものとされる[34. <u>応天門事件</u>]が発生すると善男を信頼していた天皇は、事件を解決した良房に遠慮する形で、既に元服していたにも関わらず、良房を正式に摂政に任命した。27歳で突然譲位した。

876~884	35.	陽成	基経と対立し17歳で退位。上皇暦65年を誇る。暴君であったという説もあるが、基経が天皇を退位させるためであったともされる。綏氏内親王(スヒナヒシノウ)との恋愛エピソードはよくネタにされる。
884~887	36.	光孝	陽成天皇が[37. <u>藤原基経</u>]によって廃位されたのち55歳で即位。この藤原氏を関白として、前代に引き続いて政務を委任した。
887~897	38.	宇多	即位にあたって基経と[39. <u>阿衡の紛議</u>]で政治的闘争を行うが折れる。基経の死後は[40. <u>寛平の治</u>]実施。菅原道真を登用。
897~930	41.	醍醐	藤原時平の讒言で菅原道真を大宰府に左遷(42. <u>昌泰の変</u>)。延喜の治を行う。延喜の荘園整理令、日本三代実録、古今和歌集の編纂。
930~946	43.	朱雀	在位中は[44. <u>藤原忠平</u>]が摂関として補佐。 [45. <u>承平・天慶の乱</u>]が起こり政情は不安定であった。
946~967	46.	村上	忠平の死後、[47. <u>天暦の治</u>]を実施。乾元大宝の鑄造、『後撰和歌集』の勅撰、天徳内裏歌合など律令的政治が行われたが、政情は不安定。
967~969	48.	冷泉	太政大臣・関白は[49. <u>藤原実頼</u>]。[50. <u>安和の変</u>]が起こり、源高明を左遷。実頼は次の天皇を即位させて摂政となった。
969~984	50.	円融	藤原実頼が摂政。実頼が死ぬと伊尹(コトダ)が摂政を引き継ぐ。伊尹が在職一年あまりで亡くなると、その弟の[51. <u>兼通</u> VS <u>兼家</u>]の間で、摂関職を巡って熾烈なる争いが行われる。臨時除目で関白を頼忠に譲った話は『大鏡』で有名。
984~986	52.	花山	騙されて出家してしまった天皇として有名。寵愛していた女御藤原祇子(フジワラノシ)の急死とともに失意。藤原兼家は孫である皇太子の即位と自らの摂政就任を早めるために、天皇の退位・出家を画策。蔵人として天皇に仕えていた次男・藤原道兼に対して天皇に出家を勧めさせた。
986~1011	53.	一条	花山天皇が陰謀により出家させられてしまい即位。摂政に藤原兼家が就任。兼家の死後は長男の道隆が摂政・関白。皇后に娘の定子を入れ、中宮を号させる。死後兼家の弟の道兼が関白に就任するがわずか7日後に没する。道隆の子[54. <u>伊周</u>]と道隆・道兼の弟[55. <u>道長</u>]が争う。結局、道長が天皇の生母・詮子の推挙を受け、実権を掌握。
1011~1016	56.	三条	1011年に一条天皇が崩御すると、36歳にしてようやく即位した。しかし、次の皇太子を早く天皇にしたい[57. <u>藤原道長</u>]にとって、三条天皇は目障りな存在であった。
1016~1036	58.	後一条	[61. <u>藤原頼通</u>]が3代にわたって摂関となる。
1036~1045	59.	後朱雀	
1045~1068	60.	後冷泉	
1068~1072	62.	後三条	藤原氏と外戚関係が無く、親政を行う。[63. <u>延久の荘園整理令</u>]を出し、[64. <u>記録荘園券契所</u>]を設け、藤原氏の抑制を図った。